

令和7年度使用

中学校用教科用図書研究資料

書 写

北部採択地区協議会

Ⅰ 教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点Ⅰ〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	<p>(1) 単元の構成に関しては、「書写のかぎ」で示された学習のポイントをもとに「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」の3段階で学習し、「振り返ろう」で説明させることで、学習内容を焦点化して学びを進められる工夫が見られる。</p> <p>(2) 単元の配列については、1学年の導入で小学校書写の確認をさせて円滑な接続を図るとともに、各学年末に「書写テストに挑戦！」を設定し、中学校での学習内容の確実な定着を図ることができる工夫が見られる。</p>
15 三省堂	<p>(1) 単元の構成に関しては、各教材に「書き方を学ぼう」を設けて学習内容を習得させ、単元末の「書いて身につけよう」において、学習内容を硬筆や日常生活に生かすことができる工夫が見られる。</p> <p>(2) 単元の配列については、「本編」「資料編」の2部構成となっており、本編で学習内容を身に付け、資料編で生活の中で必要となる書式を確認し、伝統文化に親しむ資料にふれることを通して幅広い知識を得られる工夫が見られる。</p>
17 教 出	<p>(1) 単元の構成に関しては、学習手順が「目標」「考えよう」「生かそう」「振り返ろう」の4段階となっており、各毛筆教材の導入「試し書き」において、硬筆で書かせることで毛筆と硬筆の学びをつなぐ工夫が見られる。</p> <p>(2) 単元の配列については、毛筆学習の成果が確実に硬筆学習へつながるよう、各単元末に「学習を生かして書く」「学校生活に生かして書く」を設定することで、習得した書写の力を学習活動や日常生活に活用できる工夫が見られる。</p>
38 光 村	<p>(1) 単元の構成に関しては、学習手順が「考えよう」「確かめよう」「生かそう」の3段階となっており、「学びのカギ」において学習のポイントを具体的な説明やイラスト等で視覚的に示し、学習内容を確かめながら学習できる工夫が見られる。</p> <p>(2) 単元の配列については、国語の学習と関連した教材を各学年に提示した「国語」を設定するとともに、「コラム」の中で学校生活や日常生活に書写学習を生かすヒントや題材を取り上げることで、習得した力の活用を促す工夫が見られる。</p>

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、「生活に広げよう」では、日常生活において文字を手書きする具体的な場面を通して、書写学習で身に付けた力の生かし方について話し合う活動を設定する工夫が見られる。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」を確実に習得させるために、各単元の「見つけよう」で「書写のかぎ」にある用語を使って説明させる活動やその用語を意識した「指でなぞって考えよう」の活動を設定する工夫が見られる。</p>
15 三省堂	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、学年末教材の「やってみよう」での新聞や情報誌の制作において、これまでの学習を生かした作品を作り上げるためのグループ活動を設定する工夫が見られる。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」を確実に習得させるために、巻末の折り込みに、「書き方を学ぼう一覧」を設け、3年間で身に付ける書写の力が全て確認できるようにするための工夫が見られる。</p>
17 教 出	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、「学習の進め方」の「考えよう」において、課題解決的な学習や話し合い活動を通じた学び方を示し、自らの課題意識や話し合いの活性化を促す工夫が見られる。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、各教材の冒頭に「試し書き」、学習末に「まとめ書き」を設定し、はじめの文字と学習を生かして書いた文字を比べる学習活動を取り入れる工夫が見られる。</p>
38 光 村	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各毛筆教材の「考えよう」において自分で課題を発見させたり、「コラム」において、文字に関する様々な問いを投げかけ、話し合う活動を設定したりする工夫が見られる。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、3年生の単元末に「三年間のまとめ」を設け、3年間の学習内容を見開きで確認し、自分の課題を確かめながら毛筆に取り組む教材を設定する工夫が見られる。</p>

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	<p>(1) 学習効果や使用上の利便性については、ページ右上に学習内容を端的に表記することで、生徒が学習内容を意識して、学習に取り組める工夫が見られる。</p> <p>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、説明の文言を文節で改行したり、小学校で学習していない漢字には初出箇所にもルビを付けたりすることで、全ての生徒への支援となる工夫が見られる。</p>
15 三省堂	<p>(1) 学習効果や使用上の利便性については、巻末の「二次元コード一覧表」において教材名ごとにコンテンツの内容や種類が掲載され、必要な情報が一目でわかる工夫が見られる。</p> <p>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、学年や学習内容ごとにアイコンや色を変えたり、区切り線や囲み線をつけたりするなど、全ての生徒が見やすく学びやすいレイアウトとなるよう工夫が見られる。</p>
17 教 出	<p>(1) 学習効果や使用上の利便性については、二次元コード「まなびリンク」から学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができ、工夫が見られる。</p> <p>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、淡い色使いをベースにA B判で作られており、大きな紙面で作品等を見ることができ、文字や作品により注目して学習することができるという工夫が見られる。</p>
38 光 村	<p>(1) 学習効果や使用上の利便性については、取り外して使用できる「書写ブック」により、学びを硬筆に生かすとともに、他教科の学習にも活用することができる工夫が見られる。</p> <p>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、行書の特徴をアイコンで示したり、毛筆手本の半紙の右端に朱墨・薄墨で点画を示したりして、筆使いのポイントを理解しやすくする工夫が見られる。</p>

4 地域課題への対応

〔観点4〕 これまでの学びや経験を生かすとともに、自分の住んでいる地域と関連付けて考えられるような工夫が見られたり、本地域の実態に配慮した工夫が見られたりしているか。

発 行 者	概 評
2 東書	<p>(1) 生徒がこれまでの学びや経験を生かすことについては、「職場訪問をしよう」のメモ、お礼状、学習発表などのさまざまな場面において、書写で学習してきたことを生かすよう工夫されている。</p> <p>(2) 生徒が自分の住んでいる地域と関連付けて考えられるようにするために、「身の回りの文字の目的と工夫」において、目的に応じた工夫や書き手の意図を考えるよう工夫されている。</p>
15 三省堂	<p>(1) 生徒がこれまでの学びや経験を生かすことについては、「グループ新聞を作ろう」において紙面を作る上でレイアウトを考え、学習してきたことを生かして書くことができるよう工夫されている。</p> <p>(2) 生徒が自分の住んでいる地域と関連付けて考えられるようにするために、地域の文字文化に関心をもち、効果的に文字を書くことの必要性について考えるよう工夫されている。</p>
17 教 出	<p>(1) 生徒がこれまでの学びや経験を生かすことについては、「学校生活に生かして書く」において、漢字と仮名の配列を理解し、メモやレポート、作品づくりに生かして書くよう工夫されている。</p> <p>(2) 生徒が自分の住んでいる地域と関連付けて考えられるようにするために、地域で見かける多様な文字の印象や表現効果について考えるよう工夫されている。</p>
38 光 村	<p>(1) 生徒がこれまでの学びや経験を生かすことについては、巻末「日常に役立つ書式」において体験活動のメモ、さらにはメールの通信文を例にあげることで文字に関心が向くように工夫されている。</p> <p>(2) 生徒が自分の住んでいる地域と関連付けて考えられるようにするために、「全国文字マップ」において身近な文字や使用例を通して文字文化へ関心が向くよう工夫されている。</p>